



稲穂

小樽市立稲穂小学校
学校だより No.9
令和7年12月4日
文責 校長 遠藤隆典

【学校の教育目標】
りこうで たっしやで
ほがらかな 稲穂の子

稲穂小 WEB



令和7年を振り返って

教頭 林 憲 幸

いよいよ12月となりました。本年も本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございました。

さて、令和7年を振り返ると、何ととっても「開校130周年」という大きな節目の年でした。2月の開校記念事業協賛会設立総会を皮切りに、大運動会、潮まつりへの参加、いなほしょうフェスタ、記念式典など、年間を通して多くの行事を行うことができました。心より感謝申し上げます。130周年記念事業に携わる中で、特に心に残ったエピソードをいくつかご紹介します。

稲穂小学校は、「小樽の中心に、優れた教育を行う立派な学校を建てたい」という市民の強い願いから誕生したということです。創立以来、周年事業や校舎改築の際には、当時の父母の会が寄付を募り、バザーを開催するなど、地域が一丸となって学校づくりに取り組んできました。こうしたPTA活動の積み重ねが、今日の稲穂小学校の礎となっています。

多くの方が学校に足を運んでくださったことも130周年ならではのです。初代校長先生のご子孫のご家族、帰省中だった方、遠方から校友会について知りたいと訪ねてこられた方、学校帰りの高校生など、実に幅広い世代の皆さまが来校され、母校を懐かしむ姿が見られました。

回顧展では、卒業生や地域の皆さま、関係各所から数多くの思い出の品や貴重な資料をご寄贈いただきました。どの品々も大切に保管されており、稲穂小が皆さまにとってかけがえのない存在であることが伝わってきました。ご紹介しきれなかった素敵な品々もまだまだたくさんございます。それらはまた10年後の140周年で…？

そして、今年度のPTAの皆さまの並々ならぬパワーには心から感動しました。その団結力と行動力は開校当時の父母の会の思いと重なるものがあり、脈々と受け継がれている「稲穂小の子どもたちのために」という愛情と「稲穂小の保護者である」という誇りをひしひしと感じました。

130周年記念事業を通して、学校の歴史の重みや先人の思いなどを知る機会となりました。何より、皆さまと共に創り上げ、学校をお祝いし、子どもたちが喜んでくれたことがとても嬉しいです。これからも、学校が地域教育の中心となり、保護者の皆さまや地域の方々、教職員とが力を合わせ、子どもたちのよりよい未来を築いていけたらと願っています。



現在、130周年記念誌を、心を込めて制作中です。どうかご期待ください。

開校 130 周年記念式典&記念イベント 盛会に終えることができました！



11 月 15 日（土）、記念式典及び記念イベントを盛会に終えることができました。校歌斉唱では、かつてない子どもたちの大きな歌声が会場の関係者全員の心に響き渡りました。多くのご祝辞もいただき 130 周年のお祝いにふさわしい式典となりました。

記念式典にかかわる事業を進めていくには、組織の力が不可欠です。稲穂小では、PTA 事務局そして PTA 各部・委員を中心とした協賛会、校友会、地域の方々、教職員のそれぞれの思いが人と人をつなぎ、絆を強め、式典を成功へと導いてくださいました。「稲穂小らしさ」と誇りたくなるチーム学校の姿でした。そして、130 年にわたり質の高い教育を目指してきた歴任教職員による教育活動の充実を目指した長年の継続した営みが「稲穂小らしさ」の風土を高めていることを実感する一日となりました。

NHK 紅白出場を決めるなど超多忙なサカナクションの山口一郎さんが、「卒業した先輩としてみんなの前に立てることをうれしい」と言ってくださりながら、「好きなことをやり続けること、あきらめないことの大切さ」を後輩たちに話してくれました。ジーンと全身に響く迫力の歌声とその姿、子ども目線で話しかけてくれた言葉の一つ一つが参加者全員の心に響く究極の授業でした。素晴らしい機会をくれた山口一郎さんにも心より感謝を伝えたいと思います。感謝は直接伝えられませんが、大晦日、それぞれのご家庭でテレビの前で応援しましょう。



今回、参加された多くの方から心に残る素晴らしい式典とイベントでしたとの声をいただいています。ありがたく思います。開校 130 周年記念式典に関わっていただきました全ての皆様に感謝いたします。



←「サイン 130 人！」達成者 3 名を表彰！

式典後に「いなほ小フェスタ」の特別種目「目指せ、サイン 130!」を見事に達成した 3 名を表彰し記念トロフィーを贈呈しました。将来大切になるコミュニケーション能力を育ててほしいという願いを込めて行われた種目です。稲穂小児童には、将来、コミュニケーションの達人となって社会で大活躍してくれることを期待しています。

小樽音読カップでの稲穂小児童のすばらしいチャレンジ！

第 11 回小樽音読カップが、11 月 8 日に市民会館で行われ、市内の全小中学校の代表の児童・生徒が小学生低・中・高学年、中学生の部に分かれて音読を発表し合いました。

本校では、14 名が校内予選に挑戦しました。チャレンジした 14 名全員が、「上手に音読をしたい。」「代表になって出場したい」という意欲的な気持ちを持ってうれしく感じました。このような休みの日に行われ、緊張も伴うコンクールに意欲的にチャレンジした 14 名のやる気を讃えたいと思います。

代表 4 名の児童は、家や学校で練習を重ね、市民会館のステージで自分の音読を表現していました。練習の成果を発揮して聞き取りやすい素晴らしい音読を発表する姿に感動しました。音読は、日本語の美しさを体感し、ことばに対する興味・関心を高めて読む力と表現する力を育みます。今後も、たくさん音読をして、美しい日本語の読み方や表現の楽しさを味わっていくことを願っています。

【入賞者が本校から選ばれました！素晴らしいですね！おめでとうございます！】

低学年の部 金賞 鶴田 健さん
 中学年の部 奨励賞 平岡 華さん
 高学年の部 金賞 石川 桃さん